

よりよい自己の生き方について考えを深める道徳科の研究

～『友達との絆を高め、心一つに』の実践より～

糸我 直人

小学校では今年度から道徳が教科となり、実施されている。そして、「単に読み物の登場人物の心情を理解させるだけの型にはまった」授業から、「考え、議論する道徳」への変換が求められている。よりよい自己の生き方について考えを深めていく道徳科の授業にするには、道徳科の目標にある「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習」をすすめていくことが重要である。

そこで本研究では、子どもたちの実生活と結びついたテーマを設定し、テーマに関連した道徳の内容項目を複数扱いました。他教科他領域と関連させながら単元として道徳科授業を行うことをとおして、子ども達が、自分事として考え、よりよい生き方について考えを深めることができるのではないかと考え実践した。

本実践を通して、日常生活と道徳の資料がつながり、よりよい自己の生き方について考えを深めることに効果があったと言える。

キーワード：総合単元型のカリキュラム、実生活、自分事、多面的・多角的

1. 研究目的

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）における道徳科の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」とあり、よりよい自己の生き方について考えを深めていく道徳科の授業にするには、「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習が重要である。

田沼（2018）は、道徳科の授業において、子どもの思考が働き、心が動く学びには、一つの道徳的テーマについて、いくつかの関連する価値を複合的・関連的につなぎ合わせて考えるとといった複数価値多時間扱いのパッケージ型ユニット（単元型学習）を提唱している。そこから、子どもたちが、道徳の時間において、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めるためには、1時間単位の道徳の授業よりも、子どもたちの実生活と結びついたテーマを設定して道徳の時間を通して追究していくことで、自己の生き方について考えをより深めることができると考えた。

そこで、本年度は、田沼実践を参考にして、総合単元型の道徳科の授業を行うことで、自己の生き方の考えを深め、実践意欲や態度をより高めることができるのか検証する。

研究仮説

子どもたちの実生活と結びついたテーマを設定して道徳の時間をとおして追究していくことで、自己の生き方について考えをより深めることができるだろう。

2. 研究方法

2. 1. 総合単元型のカリキュラム

子どもたちの実生活と結びついたテーマを設定し、テーマに関連した道徳の内容項目を複数扱いました。他教科他領域と関連させながら単元として道徳科授業を行う総合単元型のカリキュラムを行う。

テーマに関連した道徳科の内容項目を複数扱うことで多面的・多角的に考えようとしたり、道徳的価値に関わる考え方を深めたりすることができる。また、実生活と結びついたテーマを追求することにより、道徳科の授業で、学んだことをより実践の場で活かすことができ、道徳的価値を深めることができる。

以下に総合単元型のカリキュラムのモデルを示す。

単元『高野山合宿を成功しよう』

4年生では、学校行事として高野山合宿がある。高野山合宿では、集団行動としての規律や過ごし方を大切にしたいと考えた。学年でも高野山合宿に向けての心構えを話し、「右側歩行・あいさつ、スリッパならべ」を重点に取り組んだ。『高野山合宿を成功しよう』というテーマと関わりながら、そのことに関連して道徳科

の「規則の尊重」「礼儀」の内容項目の学習を行うことで、より実践的に道徳的価値の理解が深められる。

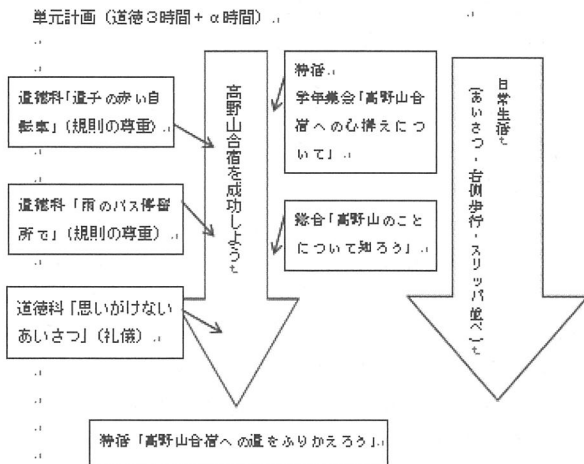


図1 【『高野山合宿を成功しよう』の単元計画】

『高野山合宿を成功しよう』というテーマに向かって総合単元型のカリキュラムを行うことで、自己の経験とつなげたり、学校行事とつなげたりする発言をし、探究している姿が見られる。

道徳科「思いがけないあいさつ」(礼儀)より

あきら：ぼくも、水泳行った時にプールにあいさつするよ。水泳は、プールがないとできないでしょ。だから、プールにちゃんとあいさつするんだよ。(自己との経験とのつながり)(図2)

ひろき：だれかがなくしたものを一緒に探してあげて見つけると「ありがとう」って言ってくれる。そうすると、ぼくもうれしくなる。(自己の経験とのつながり)

あきら：もうすぐ高野山合宿に行くけど、その時に気持ちのいいあいさつをしてほしい。(学校行事とのつながり)



図2 【自分の経験をもとに話す姿】

2. 2. 学びの足跡の掲示

テーマに関連した道徳科の内容項目を複数扱う総合単元型の授業を行うときに、それぞれの授業での気づきに関連して考えられるように、授業の後に学んだことを掲示する。学びの足跡を掲示することにより、前時に学んだことを関連させて、多角的・多面的に考えられることができる。また、単元の終わりに振り返るときにも、それぞれの内容項目を関連させながら、振り返ることができる。

2. 3. 学びを深める効果的な切り返し

道徳の価値に迫る子どもたちの発言の中には、抽象的な表現も多く、共有するためにも、発言の意味を問い直したり、学級全体で解釈したりする切り返しを行う。子どもの言葉で具体的に表現することで表面的な認識ではなく、より実感として共有することができる。

3. 授業の実際と考察

3. 1. 単元『友達との絆を高め、心一つに』

子どもたちが4月に話し合って作った学級目標『心一つになにごともがんばる4B』を軸に、『心一つにチャレンジプロジェクト』という単元テーマを設定した。学級目標やクラスで取り組んでいる8の字跳びと関連付けながら、「友達との関係の在り方」について複数の時間をかけて道徳の時間に追求することで、一人一人が、自分の中にある「友達との関係の在り方」について、様々な視点から見つめ直すことができると考え実践した。また、授業の後には、学びの足跡(図4, 5, 6)を掲示した。

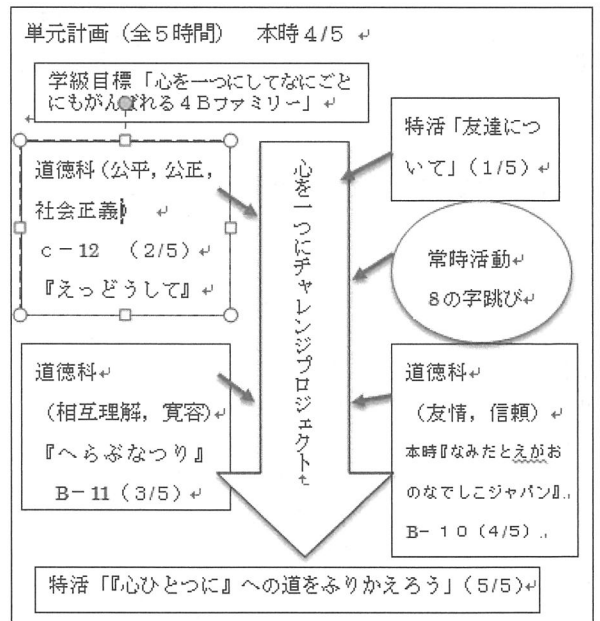


図3 【『友達との絆を高め、心一つに』の単元計画】

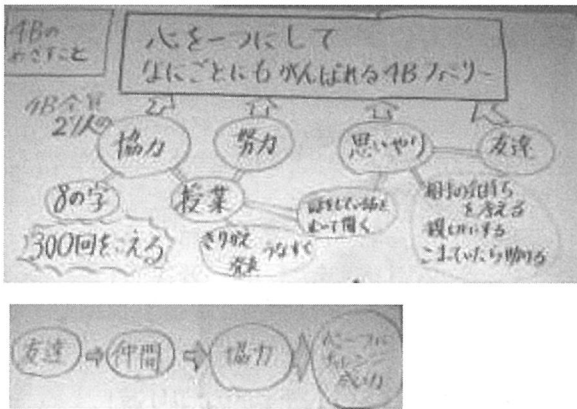


図4【『心を一つにチャレンジプロジェクト』の教室掲示】

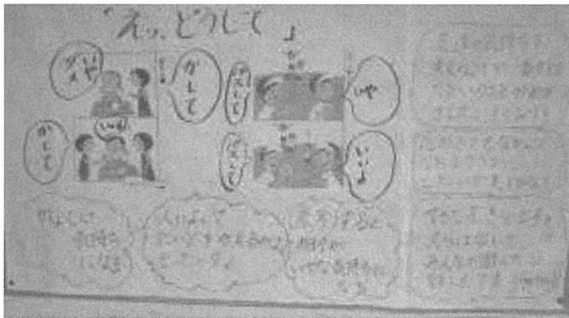


図5【教室掲示（『えっどうして』）より】



図6【教室掲示（『へらぶなつり』）より】

第4時 道徳科 『なみだとえがおの「なでしこジャパン」』より

第4時では、「最高の仲間とはどのようなものだろう」を考える時に、8の字跳びをしている自分たちの姿を重ね、一人一人が8の字跳びでイメージする「最高の仲間」の姿について考えたり、友達の意見と比べたりしながら話し合う姿を本時における探究的な学びの姿と考えた。また、振り返りの時に、自分たちの8の字跳びの様子の写真を提示することで、心一つにチャレンジできた、なでしこジャパンと、今まさにチャレンジしている自分たちを関連させて考えを深めようしている姿を省察性の働いている姿と捉えた。

子どもたちは、『心を一つにチャレンジプロジェクト』の単元テーマを基に、「より心一つにするにはどうす

ればよいか」という単元の問いを持ちながら、「友達とのよりよい関係の在り方」について考えてきた。

中心発問で「最高の仲間とはどのようなものだろう」を問うことで、一人一人が8の字跳びでイメージする「最高の仲間」の姿を考え、話し合うことができ、友達とのよりよい在り方について探究しようとする子どもを育てることができると考えた。

授業では、「なでしこジャパンのみんなをさわやかな笑顔にしたものはなんだろう」という中心発問で話し合う中で、「信頼できたから」という言葉が出た時、さらにその言葉の意味の理解を深めるために繰り返し発問をした。そして隣と話し合う活動を取り入れて話し合わせた(図7)。繰り返し発問をすることで、抽象的な言葉をより具体的に子どもの言葉で解釈し共有することができた。



図7【抽象的な言葉の意味を話し合っている姿】

教師：全力で戦えたのはなぜだろう。
 たかや：信頼できていたから。
 教師：信頼し合うというのはどういうことかな。隣の人と話し合みましょう。

(隣の人との話し合い)

教師：信頼し合うとはどういうことですか。
 ようこ：信じ合うこと。
 あきら：仲間のことを思うこと。
 教師：仲間のことを思うというのはどういうこと。
 あきら：きっと決めてくれるはずだと思うこと。
 ひろし：一人はみんなのことを思う。一人はみんなのことを思う。

(子どもたちの振り返りより)

・みんなは、大切な仲間なんだから、信じあって協力できるようにしたい。

- ・最高の仲間とは、全員が8の字で集中することや、ミスしても責めないことです。
- ・体育で、相手がミスしても、責めないで「ドンマイ」と言ってあげたいです。今日から、仲間を信じようと思いました。

子どもたちの振り返りの下線部から、自分事として、道徳の資料と向き合い考えることができたと考えます。日常取り組んでいる8の字跳びから、「心一つにするにはどうすればいいだろう」という学習課題を設定し、泣き崩れていたなでしこジャパンのみんなを笑顔にしたことについて話し合うことで、深めることができたと考えます。

また、泣き崩れていたなでしこジャパンが笑顔になったことを考える際、実体験とつなげて意味を考えられるようにするために「みんなは、泣き崩れるくらいくやしいことがありますか」と切り返し発問をしたことで、より実感して考えることができた。最高の仲間や、信じ合うことについての意味を深く考えることの土台づくりになったと言える。

第5時 特活『「心ひとつに」への道をふりかえろう』

(子どもたちの振り返りより)

- ・3つどれも大事だと思った。
- ・この3つに共通しているのは、相手の気持ちを考える事だと思います。
- ・この授業で、友達関係が良くなったと思います。今度から、一方的に責めたり、差別したりしないように気をつけたいです。
- ・8の字でもみんなを信じるのが大切だと思いました。
- ・3つの話を学習して、僕が思ったことは、相手の気持ちを考えるというのは、今まで思っていた以上に大切なことなんだなと思いました。
- ・私は、心一つにするには、相手の気持ちを考えるのが大切だと思いました。

「友達との関係の在り方」についてこれまで学習してきた道徳科『えっどうして』(公平、公正、社会正義)道徳科『へらぶなつり』(相互理解、寛容)道徳科『なみだとえがおの「なでしこジャパン」』の3つの授業を振り返り、どんな学習だったかを再確認した。次に、「この3つの学習で学んだことから共通することは？」という発問をしたとき、子どもたちが「あつ。」と気付いて、「どれも、相手の気持ちを考えるのが大切だ。」という意見が出た。相手の気持ちを大切にすることは、わかっていることだが、今回、3つの話の内容が違うが友達との関わりで相手の気持ちを大切にすることが

やはり重要なんだということを実感として再確認できた。また、子どもたちの振り返りの下線部からも、自分事として考えることができたと言える。

4. 成果と課題

「友達との関係の在り方」について道徳科『えっどうして』(公平、公正、社会正義)道徳科『へらぶなつり』(相互理解、寛容)なみだとえがおの「なでしこジャパン」の3つの授業を、単元を組んで行い、関連付けて考えることで友達関係において相手の気持ちを考えるということをより深く理解することができた。

また、授業をまとめた教室掲示を行うことでも、3つの話の内容が違うが友達との関わりで相手の気持ちを大切にすることがやはり重要なんだということに気づくことができた。そして切り返し発問を行うことでより実感として考えることができ効果的であった。

子どもたちの実生活と結びつけたテーマを設定して道徳の時間をとおして追究していく取り組みは、日常生活と道徳の資料がつながり自己の生き方について考えをより深めることができた。

普段の生活の中でも「ナイス」「ドンマイ」のような相手のことを考えた声かけややさしい心遣いが増えている。

総合単元型の学習においては、まとめの学習(第5時)で、関連づけを促す言葉かけをすることや、関連付けて知識がつながることの大切さを実感した。今後は、関連づけを促す言葉かけや、関連付けて知識がつながるための手立てを考えていきたい。そして、よりよい自己の生き方について考えを深める道徳科の授業づくりをさらに研究していきたい。

参考文献

- 文部科学省(2017)「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」
 田沼 茂紀(2016)「小・中学校道徳科アクティブ・ラーニングの授業展開」
 東洋館出版社